

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900284		
法人名	医療法人内田会		
事業所名	グループホーム「虹」		
所在地	徳島県三好市池田町中西フロノタニ1446-2		
自己評価作成日	令和3年12月31日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である家庭的な環境づくり、個性を大切に、地域家族とのふれあいを大切に職員一人一人が理念に沿った支援を心がけている。  
一人一人の生活習慣を尊重しながら施設に入居しても住み慣れた地域で地域との繋がりを切らすことなく自分らしい生活が送れるよう支援している。  
家族や地域との交流を大切にし地域の行事等で季節を感じることが出来る。  
医療機関と連携し急変時には迅速に対応できる体制が整っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年2月15日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周りに住宅が広がる、県西部の閑静な盆地に位置している。同一法人の運営する医療機関や他サービス事業所・施設等と連携し、適切な医療・介護サービスの提供に努めている。“家庭的な環境づくり”、“個性を大切に”、“地域・家族とのふれあい”を理念に掲げ、明るく穏やかで家庭的な環境のなかで、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、自分らしい生活をおくることができるよう支援している。管理者は、職員の資格取得を支援し、働く意欲の向上やスキルアップに繋げている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、地域の小学生とプレゼントやメッセージカードをやりとりするなど、交流を継続している。利用者一人ひとりの力を活かし、職員と一緒に食事の準備や後片づけ、洗濯たみを行うなど、自分らしく生活し続けるための支援に努めている。また、近隣の散歩や買い物、ドライブに出かけたり、家族の協力を得て、一時帰宅したりして、利用者の希望にそった外出支援に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの良さを理解し新人職員にも覚え易いよう短く簡単な理念にし毎日の朝礼時に唱和しており職員全員で共有し実践でも活かし支援している。	事業所では、地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ、誰にでもわかりやすい理念を掲げている。毎日の朝礼で理念を唱和することで共有化を図り、全職員で理念に基づいた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域の行事や地域の小学生の慰問など自粛している状況ではあるが季節の行事ごとに手紙や手作りのプレゼントを頂いたりと交流は続いている。	事業所は、感染症(コロナ等)の流行下において、近隣の散歩や買い物の際に地域の方と挨拶を交わすなどして、交流を継続している。クリスマスなど、季節に応じて、地域の小学校とプレゼントやメッセージカードのやりとりを行っている。町内会から地域の情報を得るなどして、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の方との交流も少なく今まで参加して頂いていた運営推進会議にも参加して頂けない現状だが以前より認知症への理解や暮らしぶりなど発信し地域の高齢者や困っている方が相談や協力出来るよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年はコロナ禍の為自粛していたが2カ月に1回運営推進会議を行い、現状を報告したり意見交換を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、事業所内で現状報告や相談等を行っているが、会議に地域住民や家族等の協力を得ることはできていない。出された意見等は、サービスの質の向上に活かしている。	今後は会議の内容を、以前出席を得ていた地域住民や家族等にも送付するなどして、意見を求められたい。事業所の取り組み等について、多様な意見を得ることで、さらにサービスの質の向上につながることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	みよし広域連合の保険者や地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加して頂いたり個別の相談などは電話や直接訪問しその都度対応している。	職員は、定期的に市担当窓口を訪問し、事業所の取り組み等を伝えている。担当者から情報や助言を得て、支援に活かすなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に1回の運営推進会議時に身体拘束適正化委員会も設けており話し合いが持たれている。また勉強会にも参加している。	事業所では、定期的に身体拘束廃止委員会を開催したり、身体拘束に関する勉強会へ参加したりしている。毎日のミーティングの際にも、身体拘束について話しあうなどして、職員間の共通認識を図り、身体拘束をしないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2カ月に1回の運営推進会議時に虐待発生、再発防止委員会を設けており話し合いが持たれている。また職員が勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会に参加している。過去に活用したこともあり職員間で話せる機会もあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や改訂の際には書面及び口頭で行っており疑問点は質問して頂きその場で解決している。それ以降でも随時対応し理解、納得を得られるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会を自粛した為家族同士が集まり意見を出し合う機会が無かったが面会時や電話等で意見や要望を伺いその都度対応している。	事業所では、年1回、家族会を開催するなどして、家族等から意見や要望を得る機会を設けている。感染症の流行下においては、毎月メッセージカードを送付したり、電話連絡したりして、利用者の日ごろの様子を伝え、意見を引き出すことができるよう工夫している。出された意見等は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員が集まる会議は現在自粛しているが日々の申し送りや業務の中でも積極的に全員の意見を聴きまた申し送りノートの活用などで業務の改善に反映させている。また何か問題が起こった時などは迅速に対応している。	管理者は、日ごろから職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。申し送りの際には、職員から意見等を聞く機会を設けている。必要に応じて、個別に意見を聞いている。出された意見等は、職員間で検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置や勤務評価を適切に行っている。職員のやる気や向上心に繋がられるよう意見に耳を傾け反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて実務者研修に令和2年2名、令和3年3名修了。認知症介護実践者研修にも令和3年度2名参加しスキルアップを図っている。又その際には優先して参加出来、無理のないようシフトを組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時などや電話で意見交換や相談できている。近隣に事業所も多いことなどから質問等あれば気軽に尋ねたりまた問い合わせなども有り相互に向上できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク面接時や入居時には本人、家族ともに不安や今後の要望なども多い為十分なアセスメントを行い不安の解消に繋げ入居して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見や要望、不安に思うことなどを聞きながら施設で出来ること、対応が難しいものなど分かり易く説明している。面会時などスタッフが施設での様子や身体面など状況を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分行い関連施設やそれ以外の施設でも相談者の状態に応じて適切な利用が出来るよう説明を行っている。必要であれば問い合わせを行い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者も職員も家族のような関係づくりができており遠慮なく言い合える関係づくりができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各利用者担当がおり担当者がひと月ごとに施設での様子などを記入したメッセージカードを郵送したり何かあれば電話連絡したりと信頼関係を築いている。入居者様の思いをお伝えしたり連携を取りながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て一時的に帰宅したり、美容院やお店に行くなど馴染みの関係が途切れないようにしている。	事業所では、馴染みの美容院に行ったり、家族等の協力を得て、一時的に帰宅したりすることを支援している。また、馴染みの人との手紙や電話のやりとりを支援し、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	育ったところや嫁ぎ先が近い等入居前からの知り合いも多く席やユニットを同じにしたがり孤立しない工夫を心がけている。また場合に応じては居室やユニットの変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に移られた施設に面会に行ったり、施設の方に状況を聞いたり在宅に帰られた際には電話連絡をするなど関係を大切にしている。また必要に応じて相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設や病院をあちこち変わられている方もおられるがその方の望む生活に少しでも近づけられるよう通院介助や外出支援、一時帰宅など家族と協力しながら個別に対応している。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族や関係者等から情報を得て、意向を本人本位に検討している。把握した内容は、申し送り簿を活用し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の希望に添えるようアセスメントしたり入居後もこれまでの関係が続けられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重度者が増えている現状があり常時状態の把握が必要である。そんな中ではあるが元気で居られる方も満足できる施設生活を送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設職員に加え家族や職員リハビリ担当者や栄養士などがケア会議に参加し他職種連携しケアプランに反映している。状態が変わった際も職場内においてすぐに話し合い対応している。	事業所では、利用者や家族等の思いを反映した介護計画を作成している。医師やリハビリテーション担当者、栄養士等、他職種の意見も計画に反映している。定期的な見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じた見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や日々の生活での気づきを個別記録に記録し情報共有やケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡が取れない方や殆ど面会に来られない方もおられる為状況に応じて日用品の買物や銀行、行政手続きなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人ひとりの地域資源や本人の残存能力を考え活用できる地域資源を考えている。また地域の消防団、駐在所、近隣住民に協力を働き掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族希望の医療機関と連携を図り入居者の支援が適切に行えるよう支援している。又家族の協力を得ながら他科受診もを行っている。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。他科受診の際は、家族等の協力を得ている。受診結果は、家族と共有し、利用者が適切な医療を受けることができるよう支援している。また、緊急時に対応できる体制も整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて関係医療機関に相談したり健康管理や医療行為等適切に支援できている。看護職、介護職の連携が図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中などに訪問し状態を把握し主治医や専門職と意見交換を行い退院の日取りや今後の生活について検討している。また居室をそのまま置くなどの対応も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化して寝たきり状態になっておられる方もいるが入居時に重度化した時の対応の説明を行い契約書にも看取りの指針を盛り込んでいる為安心されている。状態が悪化すればその都度主治医や関係機関と相談し対応を検討している。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針について利用者や家族等に説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等や医療機関と方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導のもと応急手当等の訓練を行っている。また関係医療機関にすぐ連絡し指示を仰げる。事業所にAEDを備えており緊急時に備えている。使用方法なども研修に参加し実践で活用できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と以前受けた防災講座の内容を再度確認、話し合いをし勉強している。事業所独自の備蓄品を備えている。	年2回、火災や地震を想定した避難訓練を実施している。職員間の緊急連絡網を整備したり、地域住民へ避難時の協力を依頼したりしている。事業所独自で、保存食や水、カセットコンロなどの備蓄品を整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーや人格を尊重した声掛けやプライベート空間への配慮を行っている。入浴時には衝立を使用し男女や個人の空間を作れるよう配慮している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳やプライバシーを損なうことのない支援に努めている。入浴時の同性介助や見守り、さりげない声かけなど、利用者の尊厳を守る対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の洋服選びや飲み物など様々な場面で自己決定できるように声掛けしたり言葉かけに注意しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事に時間のかかる方は他の人と時間をずらして提供したり入浴日も変更したりして個別の対応をし本人のペースで過ごせるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院でカットされたりお化粧をされたりと身だしなみに気を付けられている。洋服選びも好きな服を自分で選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には口腔体操をして誤嚥予防に取り組んでいる。提供する食事の形態はキザミやペーストお粥など状態に合わせて対応している。漬物やふりかけを好まれる方は個別に対応している。	職員は、利用者の嗜好を把握し、献立に反映している。調理は事業所内で行い、利用者にはできることで参加してもらっている。煮炊きの音や匂いを感じたり、利用者と職員と一緒に食事を摂ったりすることで、食の楽しみを感じることができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を主食、副食に分け記録し、水分摂取量も一日を通して把握できるよう表にしている。水分や食事摂取量が少ない方は栄養補助食品やゼリー飲料などで代替している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の指示のもと、毎食後の口腔ケアを実施している。口腔内の残差物の確認や残存菌みがき、夜間には義歯の洗浄を行っている。口腔内に異常があればすぐに歯科医師に相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ等の使用は出来るだけ減らすような支援を行っている。入居者一人一人の状態に応じてトイレ誘導やポータブルトイレを使用してもらっている。個別に排泄の記録も取っている。	職員は、排泄記録を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者の表情や仕草にも着目し、さりげない声かけや誘導を行っている。利用者の心身状況に応じて、ポータブルトイレを活用するなどして、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の摂取量や水分摂取量を把握し便秘防止に努めている。水分を多く摂ったり個別でヤクルト等飲んだり対策している方もあるがそれでも排便の無い方は必要に応じて薬が処方されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と時間は事業所が設定しているが体調や気分により入浴出来ない場合は別の日や時間に入浴して頂いている。入浴出来ない場合は清拭を行っている。	事業所では、少なくとも週2回の入浴ができるよう支援している。日にちや時間帯等、利用者の希望にそって対応している。特殊浴槽を整備し、利用者の身体状況に応じた支援を心がけ、安心して入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みや習慣に応じて生活用品を揃えている。季節に応じて快適に入眠出来るよう室温や衣類、寝具等にも気を付けている。電気毛布などの暖房器具を使用されている方もおられるが脱水や乾燥対策にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の個別ファイルに服用している薬の情報があり職員が使用目的や副作用なども把握できるようにしている。内容も随時更新しており全職員で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の好みの飲み物や好き嫌いを把握しており提供できている。好きなお菓子などは好みのもを個別に食べて頂いている。テレビ番組も好きなものを観ておられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか外出できないがドライブや受診リハビリの支援を行っている。家族の協力で家族や一時帰宅も行えている。	事業所では、季節に応じて、花見や遠足、買い物などに出かけている。感染症の流行下においては、近隣の散歩や買いもの、ドライブに出かけたり、敷地内で日光浴を行ったりして、気分転換を図っている。家族の協力を得て、一時帰宅するなど、可能な限りの支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理をされている方もおられ施設で通帳やお金の保管の支援をしている。個々に小遣い帳に記載し希望があれば近くの店と一緒に買い物に出かけているが重度化しており管理ができる方が減っている現状がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設の電話を使用して頂きご家族様とやり取りされている。携帯電話を使用されている方もいる。コロナ禍で面会できない分ご家族様からの手紙も増えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所や居室の飾りつけに季節感を取り入れる様にしたり季節の花を週1回活け替えている。季節に応じて温度や湿度の管理を行っており、外が明るい時には必要以上に電気を付けないようにし落ち着いて過ごして頂けるよう工夫している。	共用空間は、明るく、清潔を保っている。利用者に季節の花を生けてもらうなどして、季節感のある空間づくりを行っている。温度・湿度の管理や換気、消毒等に気を配り、利用者が快適に過ごすことができる環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室でプライベート空間になっている。居室に他の入居者が遊びに来たりユニットが違って行き来ができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は馴染みの物を取り入れている。自宅から大事にしていた人形を持って来て飾ったり花が好きな方は好きな色の造花を飾ったり個々が居心地良く過ごせるよう気を付けている。	居室には、利用者が使い慣れた家具や好みの物を持ち込んでもらっている。好きな物を飾ることで、居心地よく過ごすことができる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の活動を妨げないようにフロアや居室内の障害物は位置を変えたり撤去するなど安全に移動できるようにしている。トイレや居室を迷うことなくできるだけ自分で行けるよう表示や印を付けている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの良さを理解し新人職員にも覚え易いよう短く簡単な理念にし毎日の朝礼時に唱和しており職員全員で共有し実践でも活かし支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の行事や地域の小学生の慰問など自粛している状況ではあるが季節の行事ごとに手紙や手作りのプレゼントを頂いたりと交流は続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の方との交流も少なく今まで参加して頂いていた運営推進会議にも参加して頂けない現状だが以前より認知症への理解や暮らしぶりなど発信し地域の高齢者や困っている方が相談や協力が出来るよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年はコロナ禍の為自粛していたが2カ月に1回運営推進会議を行い、現状を報告したり意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	みよし広域連合の保険者や地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加して頂いたり個別の相談などは電話や直接訪問しその都度対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に1回の運営推進会議時に身体拘束適正化委員会も設けており話し合いが持たれている。また勉強会にも参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	2カ月に1回の運営推進会議時に虐待発生、再発防止委員会を設けており話し合いが持たれている。また職員が勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会に参加している。過去に活用したこともあり職員間で話せる機会もあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や改訂の際には書面及び口頭で行っており疑問点は質問して頂きその場で解決している。それ以降でも随時対応し理解、納得を得られるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会を自粛した為家族同士が集まり意見を出し合う機会が無かったが面会時や電話等で意見や要望を伺いその都度対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員が集まる会議は現在自粛しているが日々の申し送りや業務の中でも積極的に全員の意見を聴きまた申し送りノートの活用などで業務の改善に反映させている。また何か問題が起こった時などは迅速に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置や勤務評価を適切に行えている。職員のやる気や向上心に繋げられるよう意見に耳を傾け反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて実務者研修に令和2年2名、令和3年3名修了。認知症介護実践者研修にも令和3年度2名参加しスキルアップを図っている。又その際には優先して参加出来、無理のないようシフトを組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時などや電話で意見交換や相談できている。近隣に事業所も多いことなどから質問等あれば気軽に尋ねたりまた問い合わせなども有り相互に向上できている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク面接時や入居時には本人、家族ともに不安や今後の要望なども多い為十分なアセスメントを行い不安の解消に繋げ入居して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見や要望、不安に思うことなどを聞きながら施設で出来ること、対応が難しいものなど分かり易く説明している。面会時などスタッフが施設での様子や身体面など状況を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い関連施設やそれ以外の施設でも相談者の状態に応じて適切な利用が出来るよう説明を行っている。必要であれば問い合わせを行い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者も職員も家族のような関係づくりができており遠慮なく言い合える関係づくりができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各利用者担当がおり担当者がひと月ごとに施設での様子などを記入したメッセージカードを郵送したり何かあれば電話連絡したりと信頼関係を築いている。入居者様の思いをお伝えしたり連携を取りながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て一時的に帰宅したり、美容院やお店に行くなど馴染みの関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	育ったところや嫁ぎ先が近い等入居前からの知り合いも多く席やユニットを同じにしたリ孤立しない工夫を心がけている。また場合に応じては居室やユニットの変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に移られた施設に面会に行ったり、施設の方に状況を聞いたり在宅に帰られた際には電話連絡をするなど関係を大切にしている。また必要に応じて相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設や病院をあちこち変わられている方もおられるがその方の望む生活に少しでも近づけられるよう通院介助や外出支援、一時帰宅など家族と協力しながら個別に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の希望に添えるようアセスメントしたり入居後もこれまでの関係が続けられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重度者が増えている現状があり常時状態の把握が必要である。そんな中ではあるが元気で居られる方も満足できる施設生活を送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設職員に加え家族や職員リハビリ担当者や栄養士などがケア会議に参加し他職種連携しケアプランに反映している。状態が変わった際も職場内においてすぐに話し合い対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や日々の生活での気づきを個別記録に記録し情報共有やケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡が取れない方や殆ど面会に来られない方もおられる為状況に応じて日用品の買物や銀行、行政手続きなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人ひとりの地域資源や本人の残存能力を考え活用できる地域資源を考えている。また地域の消防団、駐在所、近隣住民に協力を働き掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族希望の医療機関と連携を図り入居者の支援が適切に行えるよう支援している。又家族の協力を得ながら他科受診もやっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて関係医療機関に相談したり健康管理や医療行為等適切に支援できている。看護職、介護職の連携が図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中などに訪問し状態を把握し主治医や専門職と意見交換を行い退院の日取りや今後の生活について検討している。また居室をそのまま置くなどの対応も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化して寝たきり状態になっておられる方もいるが入居時に重度化した時の対応の説明を行い契約書にも看取りの指針を盛り込んでいる為安心されている。状態が悪化すればその都度主治医や関係機関と相談し対応を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導のもと応急手当等の訓練を行っている。また関係医療機関にすぐ連絡し指示を仰げる。事業所にAEDを備えており緊急時に備えている。使用方法なども研修に参加し実践で活用できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と以前受けた防災講座の内容を再度確認、話し合いをし勉強している。事業所独自の備蓄品を備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーや人格を尊重した声掛けやプライベート空間への配慮を行っている。入浴時には衝立を使用し男女や個人の空間を作れるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の洋服選びや飲み物など様々な場面で自己決定できるように声掛けしたり言葉かけに注意しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事に時間のかかる方は他の人と時間をずらして提供したり入浴日も変更したりして個別の対応をし本人のペースで過ごせるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院でカットされたりお化粧をされたりと身だしなみに気を付けられている。洋服選びも好きな服を自分で選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には口腔体操をして誤嚥予防に取り組んでいる。提供する食事の形態はキザミやペーストお粥など状態に合わせて対応している。漬物やふりかけを好まれる方は個別に対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を主食、副食に分け記録し、水分摂取量も一日を通して把握できるよう表にしている。水分や食事摂取量が少ない方は栄養補助食品やゼリー飲料などで代替している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の指示のもと、毎食後の口腔ケアを実施している。口腔内の残差物の確認や残存歯みがき、夜間には義歯の洗浄を行っている。口腔内に異常があればすぐに歯科医師に相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ等の使用は出来るだけ減らすような支援を行っている。入居者一人一人の状態に応じてトイレ誘導やポータブルトイレを使用してもらっている。個別に排泄の記録も取っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の摂取量や水分摂取量を把握し便秘防止に努めている。水分を多く摂ったり個別でヤクルト等飲んだり対策している方もあるがそれでも排便の無い方は必要に応じて薬が処方されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と時間は事業所が設定しているが体調や気分により入浴出来ない場合は別の日や時間に入浴して頂いている。入浴出来ない場合は清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みや習慣に応じて生活用品を揃えている。季節に応じて快適に入眠出来るよう室温や衣類、寝具等にも気を付けている。電気毛布などの暖房器具を使用されている方もおられるが脱水や乾燥対策にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の個別ファイルに服用している薬の情報があり職員が使用目的や副作用なども把握できるようにしている。内容も随時更新しており全職員で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の好みの飲み物や好き嫌いを把握しており提供できている。好きなお菓子などは好みのもを個別に食べて頂いている。テレビ番組も好きなものを観ておられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか外出できないがドライブや受診リハビリの支援を行っている。家族の協力で家族や一時帰宅も行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理をされている方もおられ施設で通帳やお金の保管の支援をしている。個々に小遣い帳に記載し希望があれば近くの店と一緒に買い物に出かけているが重度化しており管理ができる方が減っている現状がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設の電話を使用して頂きご家族様とやり取りされている。携帯電話を使用されている方もいる。コロナ禍で面会できない分ご家族様からの手紙も増えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所や居室の飾りつけに季節感を取り入れる様にしたり季節の花を週1回活け替えている。季節に応じて温度や湿度の管理を行っており、外が明るい時には必要以上に電気を付けないようにし落ち着いて過ごして頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室でプライベート空間になっている。居室に他の入居者が遊びに来たりユニットが違って行き来が出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は馴染みの物を取り入れている。自宅から大事にしていた人形を持って来て飾ったり花が好きな方は好きな色の造花を飾ったり個々が居心地良く過ごせるよう気を付けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の活動を妨げないようにフローアールや居室内の障害物は位置を変えたり撤去するなど安全に移動できるようにしている。トイレや居室を迷うことなくできるだけ自分で行けるよう表示や印を付けている。		